

四国中央市市民文化ホール設計プロポーザルコンペ 審査結果について（講評）

四国中央市が計画する市民文化ホールの建設にあたり、四国中央市民と共にホールの具現化のために幅広い知見や、優れたアイデア・技術、情熱をもって設計を担っていただけの設計者を選定するために、設計プロポーザルコンペを実施しました。

選考は、四国中央市市民文化ホール設計者選定委員会で二段階方式により行いました。第一段階審査は公募による参加表明のあった8者の提案書を審査し、第二段階審査参加の6者を選定しました。第二段階審査は第一段階審査通過6者によるプレゼンテーション、ヒアリングを行い厳正な審査を行った結果、次のとおり最優秀提案者、第二順位、第三順位を選定しました。

■審査結果

- 最優秀提案者 株式会社 日建設計 大阪オフィス
- 第二順位 環境デザイン・佐藤・岸四国中央市市民文化ホール設計共同体
- 第三順位 (株)石本建築事務所・(株)加藤建築設計事務所 設計共同体

■講 評

○最優秀提案者：株式会社 日建設計 大阪オフィス

非常にコンパクトな施設計画でありながら、機能面や動線面における課題についても、施設管理のしやすさや運営面における配慮を踏まえ、良く整理をされた提案となっていた。

また、市が求めている施設機能に対する理解の高さが伺えるとともに、ホール機能に対する考え方や単独利用が行える稽古場の提案など、経験値の高さに基づいた提案などが評価された。

一方で、まとまりすぎて魅力に欠けるといった意見もあったが、総事業費や将来のランニングコストに対する考えの確実性が評価され、安定感のある計画には、今後の設計協議による発展性が期待された。

さらに、設備計画においては、実績に基づいた自然エネルギーの活用提案なども評価された。

○第二順位：環境デザイン・佐藤・岸 四国中央市市民文化ホール設計共同体

施設機能についてはコンパクトでありながら全体的に良くまとまっており、ホール機能に対する考え方も経験値の高さがうかがえる提案が評価された。

また、ひとづくり支援センターとの繋がりについても十分な配慮が感じられた。

一方では、エントランスが2階に設けられており、施設に対するメインアプローチが階段となっていることや、南北を結ぶガレリアがリハーサル室で分断されていることで

ギャラリーの魅力が十分に活かされていない点などが指摘された。

○第三順位：(株)石本建築事務所・(株)加藤建築設計事務所 設計共同体

敷地全体を活用した考え方や土地の記憶を継承するといった提案や冬場の外部利用に対する提案など、全体的に発想のスケールが大きく、个性的かつ独創的な提案となっている。

さらに、災害拠点に対する考え方やひとづくり支援センターを一体的に構成する考え方なども評価された。

一方で、施設が分散配置されていることに対する運営上の懸念や、ホール機能に対する基本的な考え方に対する懸念が指摘された。

平成24年3月26日

四国中央市市民文化ホール設計者選定委員会
委員長 土井 健司